

柵の木からの手紙

2020年 如月 2月号



根雪。例年では12月5日頃には根雪になる。この冬は、降雪が少なく暖かいのか雪が殆ど無く、12月31日には雨が降り僅かな雪も融けてしまった。

雪の無い正月。畑に育つ秋播き小麦は、雪で覆われる事無く野ざらし状態で色が黒っぽくなってきたかな？作物の生育や水不足を憂える年の初め。寒の入りの小寒1月6日（この冬の根雪日）午後雪が降り漸く小麦が雪で覆われた。それでも積雪が多いわけでは無くアスパラの実を求めて畑にやって来る野鳥（ヒヨドリ）の様子はまるで春先の様。しかし、30・31日の暴風雪の後、姿を見せなくなりました。

何処かへ避難しているのかな？

雪踏み。昨年12月29日、初めてやってみました。

何をしたか？って「雪踏み」（左上写真）です。

ここ何年か、流行ってきている作業ですが、冬で暇だから行っている訳ではありません。暖冬の影響で、土中深くまで凍結する事が少なくなり、前年に芋を作付けした後に

春になってビート等を植えると、前年の芋の屑が芽を出して成長する事が多くなってきました。

或いは、芋を収穫して9月に秋播き小麦を作付けする訳ですが、翌年には小麦畑の中で芋が生育して数を増やしてその翌年にはビートが作付けされます。

冬に土壤凍結が地下深くまで（50～60cm位）入ると、土中に残った芋が凍れて腐り春になって芽吹く事が無くなります。また、虫や菌等も凍結の影響で個体数が減少します。

この年末は、積雪も5cm程と少ないのでこのままでも土壤凍結が十分深くまで入っているという事ですので、無理に雪踏みをする必要は無いのですが、小麦の鎮圧用のローラーを代用して雪踏み作業が出来るのか（この雪踏みは、大型トラックのタイヤを利用して行うのが一般的）確認する為に行ってみました。そしてその効果は、芋の花が咲く頃、或いは秋の収穫時に答えが出ます。今回、積雪の深さにもよりますが気温の低い時で5cm程の積雪であれば写真の様な小麦の鎮圧ローラーでも十分に作業が出来ました。



12月31日に降雨があり殆どの雪が融けましたが、雪踏みをした畑は土壤の温度が低い為、雪が多く残っていました。左写真の右の土手に沿って黒い筋が見えていますがこの部分は、雪踏みをしていない所。

雪踏みをして土壤凍結を深くまで入れてしまうと春の作業開始が遅くなりますので、その点を考慮する必要があります。当農場では、自然農法の畑は慣行の作物が終わってから作業が始まりますので安心して雪踏みの試験作業を行う事が出来ました。